

令和3年度 第2回学校運営協議会 記録

日 時 令和3年12月6日(月) 10:00～12:00

出席者 学校運営協議会委員(6名:A委員 私立大学教授、B委員 障がい者就業・生活支援センターセンター長、C委員 私立保育園園長、D委員 本校PTA副会長)、校長、事務局(7名)

*運営委員の吹田市立中学校校長と株式会社 総務部は欠席

1. 校長挨拶

緊急事態宣言も解除され、本校も、9、10月にやっと本格的に動き出したという状況です。保護者の方にも参観日にお越しいただけるようになりました。また、子どもたちの楽しみにしていた宿泊学習・修学旅行も実施することができました。運動会、学習発表会の全校行事も実施することができました。まだまだ通常通りというわけにはいきませんが、今後も子どもたちの成長を願い、活動に配慮しつつ3学期も頑張っていきたいと思っております。

今年度の運営協議会のテーマは、ICT活用です。運営委員の皆様からは地域でのICT活用についてもご紹介いただきながら、本校のICT活用についてご意見をいただきまして、今年度残り、来年度にもつなげていければと思っております。本日は協議をよろしく願いいたします。

2. 資料の確認

3. 委員紹介・事務局の紹介(略)

4. 授業見学 小学部「グループ」の授業

- ・課題別学習(認知かず)
- ・トラックグループ(4～6年縦割り)
- ・ICT(タブレットPC)も活用した授業

5. 報告

<令和2年度進路状況報告> 高等部主事より

- ・体験実習の概要

企業実習 2年は1回 3年は数回

事業所 1年体験実習希望者のみ 2年は3学期から実習

・進路先一覧（39名）

近年の特徴として、自立訓練系の進路が増えている。2年度は3分の1が該当

企業への就職は5名

卒業生へのアフターフォローも、障がい者就業・生活支援センターと連携して実施

・「自立訓練」の増加

卒業後もすぐに就職というのではなく、

「自立訓練」2年～「就労移行」～就職という道

いろいろなルートがあるのはいいこと

生徒にあった進路先を、本人と親の意向も踏まえて見つけていく

・令和3年度の進路状況。未定は2名

<本校での ICT 活用について>

・ICT を活用した授業づくり

従来の情報教育は、パソコン技術の学習で担当する教員も限定されていた。

今は、全ての教員が ICT 機器を活用し、授業理解を助けるための活用が求められる

授業の目的を達成するために活用する

・ICT を活用するメリット

テレビモニタなど、注目するところがわかりやすい

大きく映し出すことで、離れているところのも見やすい

子どもの特性等に応じて教材作りができる

作った教材は、再利用がしやすい。共有しやすい

・小学部教材例 「筆算」で筆算のやり方の手順が見てわかる。テレビに映して説明

・中学部教材例 「選挙」について 選挙公報をムービーで手作り

・高等部教材例 「歴史上の人物」ネットを使った調べ学習とプレゼン作成

・GIGA iPad について

GIGA スクール構想「一人1台 PC」で導入

運用ガイドラインの整備に取り組んでいる

家庭向け情報倫理規定の整備

児童生徒向けルール

オンライン活用学びの保障ガイドライン ご家庭でのご協力を

・今後の課題

教員の活用スキルの向上

家庭の協力

情報リテラシ教育

・質疑応答

教頭：委員の皆様からご質問はありませんか？

B 委員：進路先として「自立訓練」が増加とのことですが、親御さんのニーズもあってのことでしょうか？

高主事：そうですね。ここ数年、「自立訓練」の問い合わせが増えています

B 委員：「就労移行」への希望は逆に減っている？

高主事：そうですね

B 委員：親御さんは、事業所の情報をどうやって集めていらっしゃるのでしょうか？

D 委員：親の会とか、いろいろですね。「自立訓練」については私も最近知りました。見学に行ってみようかなと考えているところです。

B 委員：これだけ増えてくると情報集めは大変ですね

高主事：学校では、摂津支援と合同で説明会を実施するようになりました。保護者も多数参加しています。

6. 休憩

7. 協議（進行は会長の A 委員）

A 委員 それでは協議を始めます。今年度のテーマは「ICT 活用」ですが、本日、小学部の授業を見学しまして活用について教員の工夫を感じました。委員の皆様からはそれぞれの立場からも「ICT 活用」についてご意見をいただきたいと思います。

さて、支援学校では以前より iPad が配備されており、授業でも活用されていました。私もかつて勤務していた支援学校では、家庭科の教員が iPad で映像教材を作り、それを何度も見せながら授業を進めていたことを覚えています。これは便利だし活用していこうとなったのですが、ただ、若い教員はともかく、年配の教員にとっては操作がわからないということがありました。そこで、年配の教員を対象に研修会を実施したこともありました。

私の勤務する大学では、学生に大学入学時にパソコンを購入するように指示しています。大学からの連絡はメールで行くようになっていました。学生は4年になって教育実習に行くのですが、感想を聞くと、実習先の学校でiPadを活用した授業がされていたとのこと。大学でもICTを活用した指導法について学ぶ機会を作っていくことが求められていると思います。ICTを活用した教材作成と活用の技量を高める、この点での育成が課題です。

ところで、コロナ禍のためにオンラインでの授業をせざるをえない状況でした。学生にしてみたら、ずっとズームやミーティングを見ているということもかなりしんどかったことと思います。そういう意味では、オンデマンドの方が時間に拘束されない分、よかったかもしれません。D委員、ご家庭では子どもさんの様子はどうだったでしょうか？保護者もサポートということで大変だったのでは？

D委員 私も一緒にしたのですが、大変というよりは子供と一緒に楽しめたという感じでした。子どももズームとか結構楽しんでやっていましたよ。操作も、どこで覚えたの？と感心するほどいつの間にかできていました。繰り返す中で覚えるようですね。PTAの集まりでも、大変だったという話題はなかったですね。

A委員 ありがとうございます。ところで、B委員。高等支援の教員から聞いた話なのですが、卒業し就職した生徒が、いきなりテレワークということで自宅での勤務となった。そのうち出勤できるようになったのだが、会社に行って人と直接コミュニケーションを取って仕事をするのが逆にストレスになった。こんな話を聞いたのですが、こういう事例は結構あるのでしょうか。

B委員 そうですね。聞いたことがあります。最初はテレワークが不安なだけけれど、それに慣れたら、逆に職場に戻るのが不安になったということはあるようです。他にも、リテラシ関連では、ネットの振込詐欺やデート商法の被害にあった方もけっこういます。ネットでの正しい情報の選び方、クリックする前に慎重になることなど教えることは課題ですね。

また、先ほどズームの話がありましたが、就労者さんの交流をこの間ズームで実施しました。思ったより盛り上がってよかったです。それで、コロナ禍が収まった時に、直接会っての交流会をしたのですが、集まったら逆に盛り上がらないということがありました。ズームだと一人ひとり順番に発言するということが多いのですが、実際に会っての話はランダムになるので、どのタイミングで話をすればいいのかわからないということがあったようです。改めて、アナログ的なコミュニケーションスキルを図ることが大切と思いました。

あと、家庭での環境という点では、Wi-Fiがないというご家庭があります。また、ズームで本人がミュートできないで、家族の会話がまる聞こえということもあります。ご家族の対応に期待するという部分はやはりあります。

A 委員 保育の現場ではいかがでしょう？

C 委員 ICTで教材を作るということはありませんが、保護者との日々の連絡のツールとしてiPadを活用しています。保護者には、スマホで登録をしてもらっています。今日の授業を見まして、先生たちのスキルはすごいのだなと思いました。先ほどの連絡ツールの導入ではけっこう大変でした。保護者の方は使いかたがよくわかっている様子でした。スキルを磨いていくことは今後大切ですね。

ところで、この間リモート授業が学校では実施されていましたが、小1の子をもつお母さんから話を聞いたのですが、やはりそばについていないとできないということがあったそうです。家庭のご協力を得ることは欠かせないですね。リモート授業導入の大変さがわかりました。

A 委員 ありがとうございます。ところで、スキルの話になりましたが、学校では情報スキルを高める研修はされていますか？

教頭 はい、おこなっています。例えば、休業中に自主研修をしています。また、府の教育センターでの公的な研修に参加しています。教員のスキルという点で見ますと、アプリの使いかたという点は高いのですが、機器をネットに繋げるという技術、いわばハード的な使い方理解している教員はまだまだ少ないです。

A 委員 そうですね。まだ若い人はよくわかっていると思いますが、年齢的に高くなると「こんなんわからん」ということありますね。若い人からすると、わかっている当たり前ということでも。

高主事 そうですね、トラブルがあると若い教員に任せてしまうということありますね。

A 委員 対応できないということでは、大学のリモート授業で自分のズームの映像と音声をとんでしまうということがありました。学生からは「終わりやな」との声が聴こえます。

「終わりちゃうで!!!」と叫んでも学生には聴こえない。1人でやっているのに誰も助けられず困りました。リモートは全教員がうまく安心して使えるというのはまだまだかなと思います。

家庭の環境ということでは、3人兄弟でPCが1台というところもある。3人ともズームということになると対応できない。スマホでするとギガの容量が足りないということも起こります。家庭によってネット環境が違うということへの対策が必要ですね。

ところで、リテラシについてですが、高等部では学習の機会がありますか？

高主事 はい、1年間に1回はやっています。

A委員 ネット詐欺にあったというようなトラブルはありますか？

高主事 生徒が勝手にネットショッピングをしてしまったということがありました。ラインでの生徒間のトラブルは頻繁にあります。文字だけのコミュニケーションで相手に気持ちをうまく伝えられないというところが原因でしょうか。

A委員 ラインは便利ですね。既読が出るというのは便利です。学生からも「先生、ライングループ作っていいですか？」と誘われることは多いです。

ところで、コロナの感染も収まってきたこともあって通常の授業が始まりつつあります。どうでしょうか？オンライン授業のメリットはいろいろとあると思うのですが、良い部分はそのまま残して欲しいでしょうか？

D委員 良いところは残して欲しいと思います。

A委員 B委員、先ほど対面よりもオンラインが効果のあるというお話もありましたがいかがでしょうか。

B委員 内容によって、対面、オンライン使い分ければいいのではと考えています。先日、ハロウィンパーティをオンラインで実施したのですが意外と盛り上がりました。また、大手企業では入社しない、オンライン主流の働き方も始まっています。今の時代、両方に対応していく必要があると思います。

A委員 話は変わりますが、ICTのメリットとして、教材の再利用・共有がありました。

吹田支援では教材の共有はどの程度されていますか？

教頭 共有している教材データもあるという状況です。個人で作成したものを提供してもらうという方法です。

A委員 ストックの量は増えていますか？

教頭 個人レベルでは日を追うごとに増えていると思います。そこからの提供ということで、共有するものは少しずつ増えています。授業見学では「筆算」の教材が活用されていましたが、他の授業でも筆算に取り組んでいますので、活用できますし、子供に合わせて修正も短時間でできます。

A委員 教員の会議等で活用はされていますか？

教頭 本校は大きな職員室に小中高全員おりますのでリモートの活用はしておりませんが、他の学校で職員室が分かれているところでは、リモートを活用しているところもあります。あと、教育センターの初任者研修は、年度当初は、ほぼほぼオンラインでの実施でした。

A 委員 C 委員、保育の現場の業務改善で ICT の活用はどうでしょうか？

C 委員 ICT の活用については、できないとはいえない時代ということで取り組むものの、苦戦している状況です。

話は少し変わりますが、コロナ対応する中でこのままいろいろな制限が続くならどうなっていくのだろうかという思いがあります。就職活動も今はオンラインになっているそうですが、どこを見て採用としているのかと不思議に思うこともあります。コミュニケーションの形が変わらざるをえなかったということだとは思いますが。

保育の現場で思うことは、0 歳児の子どもは生まれてからずっと周りの大人がマスクをしているので、将来、表情を読み取るということができのだろうか？目だけで判断？それならどういう影響が出るのかと心配になります。人はコミュニケーションなしでは育たないので、制限の影響で十分育たなかったコミュニケーションスキルをどう補ったらいいのか？ということも考えてしまいます。たまに職員がマスクを外すことがあるのですが、子どもはビックリします。マスクの下に顔があるんだ！！というような気持ちではと思います。

A 委員 学生もマスクをしているのでわからないことがあります。就職が決まると髪の毛の色を変える学生もいるのですが、そうなる谁也かわからないです。挨拶をしてくれるので誰か知っている子なのだとは思いますが。

C 委員 喜怒哀楽は目だけの情報ではなかなかわからないですね。化粧変えたらどの子の保護者もわかりませんね。

A 委員 さて、校長先生、対面授業にオンライン授業、それぞれのメリット、デメリットという話題が続いておりますが、吹田支援学校としては、今後どういう方向で進めていこうとお考えでしょうか。

校長 一言で言うならば、ハイブリッド的活用ということになると思います。今のお話にもありました通り、コミュニケーションの課題ということを考えますとオンラインの授業一本で行くのはデメリットですが、一方で、非常時に備えてオンラインを進めていくこと、その準備をしていくことも必要です。そのためにはまず、授業作り！ここを踏まえての活用、子どもに応じた活用、ここはしっかりやりたいと考えております。

0 歳児の例がありましたが、本校の生徒もコミュニケーションの課題があります。今の制限のある中でどうスキル向上をめざすのかということももちろん大切です。

A 委員 聴覚支援では、マスクをすることでそもそもコミュニケーションが取れなくなります。フェースガードの活用などの工夫をされているそうです。

さて、それでは話題を変えます。進路先として「自立訓練」の希望の増加の件です。大学生ですら将来何になりたいかわからない、迷う時代に、支援学校の高等部の生徒が卒業してすぐに進路を決めてしまうというのはハードルが高いと感じます。

「自立訓練」に取り組む事業所数はそもそも増えているのでしょうか？

B 委員 はい、数として今後も増えてくる状況です。

D 委員 保護者としても、「自立訓練」の場で、学校でおこなっていることに近いことをしてもらえるのは無理なくいいのではと思います。事業所によっては、「自立支援」→「就労移行」と合わせておこなっているところも増えてきているので、そういうところを選択するのもありかと思います。また、「放課後等デイサービス」をされているところもあり、早い時期から対応してもらえるのは安心材料です。事業所も経営方針が変わりつつあるという印象です。

A 委員 進路選択が、多方面にひろがっていくのは良いことですね。さて、時間も迫りました。協議ではICT活用、進路という内容で協議を進めました。今日の話、学校でのとりくみにつなげてほしいと思います。

8. 本日のまとめと挨拶 校長より

本日は協議ありがとうございました。ICT活用、コミュニケーション、進路といったことが話題となりました。

ICT活用の課題はまだ途上にあるという印象です。子ども一人ひとりに応じた支援というところを基本に継続して進めていきたいと思います。

進路指導については、吹田支援はアフターフォローを地域と連携してしっかりやってきたという自負があります。地域、保護者と今後も連携し、信頼関係のもと進めていきたいと思っています。子どもに応じた進路選択という点で何ができるか、どう子どもを育てるかしっかりと考えていきたいと思っています。

今年度、次年度に向けて貴重なご意見をいただきありがとうございました。

9. 事務局より

第3回は、令和4年2月7日(月)であることを確認

10. 閉会 12:00